

# 令和2年度 シラバス

第1学年  
普通科  
志学コース

鳥取城北高等学校

教科名	国語	科目名	国語総合	単位数	5 単位
対象学年	第1学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修
科目の目標	国語を適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高め、思考力を伸ばし心情を豊かにする。また、言語感覚を磨き、言語文学に対する関心や理解を深めるとともに、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を論理的に理解し、思考する力を養う。</li> <li>・優れた文学作品に触れ、感受性・情緒性豊かな想像力や思いやりの心を育む。</li> <li>・表現力・コミュニケーション力・想像力を高め、社会性・国際性を育み、課題解決能力を培う。</li> <li>・古典に親しみ、自国の文化についての理解を深める。</li> <li>・生涯にわたり、読書に親しむ習慣を身につける。</li> </ul>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重して向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合つたりして、自分の考えをまとめて、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。
教科書、教材など	教科書:『精選国語総合改訂版』(三省堂) 補助教材:『精選国語総合学習課題ノート』(三省堂)『重要古文単語315』(桐原書店) 『常用国語便覧』(浜島書店)『体系古典文法』(教研出版)『新明説漢文』(尚文出版) 『改訂版漢字ことば常用漢字ワイドアルファ漢字検定7級~2級』(桐原書店)				
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1	4	【現代文編】《隨想》 ○ぐわぜん、うたがう ○「待つ」ということ  【古文編】《古文入門》 ○児のそら寝 ○檢非違使忠明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隨想の基本的な読み方を習得する。</li> <li>・二項対立的な内容を把握しながら、全体の構成を的確に捉える。</li> <li>・繰り返し音読して古文のリズムに慣れる。</li> <li>・歴史的仮名遣いや古語と現代語の違いを理解する。</li> </ul>	筆者のものの見方や感じ方を理解するとともに、自己を見つめ、自立することの意味を考える。  古文を読む意義を理解して、古文や古文に描かれた世界に関心を持つ。	15
	5	【現代文編】《小説I》 ○羅生門 ○ゴール  【漢文編】《漢文入門》 ○漢文の構造と訓読 ○成句・格言を読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説を読む基本的な方法を習得する。</li> <li>・登場人物の心理や行動の意味を表現に即して的確に読み取る。</li> <li>・漢文の基本構造を理解する。</li> <li>・訓点を理解して正しく音読する。</li> <li>・書き下し文のルールを理解する。</li> </ul>	小説の構造・展開・主題の把握など、読解の基本的方法を学び内容を理解し、人間の心理に対する考えを深める。  漢文とは何か理解し、独特の口調に慣れ、訓点・書き下し文・基本構造・再読文字・助字・置き字について理解する。	15

6	<p>【現代文編】《評論Ⅰ》 ○水の東西 ○言語は色眼鏡である</p> <p>【古文編】《物語》 ○竹取物語 ○伊勢物語</p> <p>【漢文編】《故事成語》 ○推敲・漁夫之利・蛇足</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論の基本的な読み方を習得する。</li> <li>・具体例を丁寧に読み取りながら論理の展開を把握し、筆者の主張を的確に捉える。</li> <li>・作り物語、歌物語を読み平安時代の物語文学に親しみ、当時の社会や人々の有様や心情を捉える。</li> </ul>	<p>論理性に着眼し評論を読み解く方法を学び筆者の考え方をまとめ、比較文化論、言語、自分の生き方にについて考える。</p> <p>物語の内容を理解し、当時の社会や人々のありさまや心情をとらえるとともに、助動詞・助詞について理解する。</p>	20	読む能力、知識・理解で評価  関心・意欲・態度、読む能力で評価
7	<p>【現代文編】《詩》 ○旅上・サークス・I was born・崖</p> <p>【古文編】《隨筆》 ○徒然草</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の置かれている状況や考え方、心情の変化、場面の推移を理解し、自分の考えを持つ。</li> <li>・繰り返し音読して詩に親しみ、個性豊かなものの見方や感じ方を味わい、言葉が持つ魅力を発見する。</li> <li>・和文体、和漢混交文体、説話体の文体の違いを理解し、優れた表現を味わう。</li> </ul>	<p>音読を繰り返して訓読に慣れ、語句や句形を理解し、示唆に富む内容を読み味わう。</p> <p>詩の世界や表現に親しみ、それぞれの作品の中で言葉が独特な力を有していることを理解して、自分の言語力やものの見方を深める。</p> <p>隨筆の内容を理解して、筆者のものの見方をまとめるとともに、助動詞・助詞について理解する。</p>	20	読む能力、知識・理解で評価  関心・意欲・態度、読む能力で評価
8	【漢文編】《漢詩》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近体詩の規則を理解する。</li> <li>・主要な詩人について、文学的知識を持つ。</li> </ul>	<p>漢詩の簡潔な表現に込められた内容や情感を理解して鑑賞するとともに、近体詩の表現形式について理解する。</p>	5	読む能力、知識・理解で評価  関心・意欲・態度、読む能力で評価
9	<p>【現代文編】《小説Ⅱ》 ○清兵衛と瓢箪 ○青が消える</p> <p>【古文編】《和歌》 ○万葉集 ○古今和歌集 ○新古今和歌集</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み、場面の推移や人物の心理の変化を理解する。</li> <li>・和歌の調べの美しさを味わう。</li> <li>・和歌の優れた表現に親しむ。</li> </ul>	<p>登場人物の人間性を把握し、作品の主題について考察し、言語表現に注目した鑑賞に取り組む。</p> <p>知的な「古今和歌集」と幽艶な「新古今和歌集」の歌の内容を理解し、技法について理解する。</p>	20	読む能力、知識・理解で評価  関心・意欲・態度、読む能力で評価
10	<p>【漢文編】《史話》 ○鷄口牛後 ○先従隗始</p> <p>【現代文編】《評論Ⅱ》 ○情報と身体 ○コインは円形か</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史伝に描かれた古代中国の人々の生き方について考察する。</li> <li>・「情報通信技術」の発達がこれからの社会にどのような意味をもつかを考える。</li> <li>・「論語」に込められた意味を丁寧に読み取る。</li> <li>・二人の思想が現代においてどのような意義を持つか考察する。</li> </ul>	<p>人間や人間関係を生き生きと描いた史伝の魅力を押さえ、繰り返し音読して長文の漢文に慣れる。</p> <p>文章の構成や論の展開に注意しながら、現代の科学や美のあり方について自分の考えを深める。</p>	20	読む能力、知識・理解で評価  関心・意欲・態度、読む能力で評価
11	【漢文編】《思想》 ○論語・孟子		<p>孔子と孟子のものの見方や考え方を学んで理解し、自分の考えを深める。</p>	20	読む能力、知識・理解で評価  関心・意欲・態度、読む能力で評価

	【古文編】《日記》 ○土佐日記	・日記を読んで、人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。	日記に描かれた平安時代の旅の様子や登場する人々の心情を理解し、助動詞・助詞について理解する。		関心・意欲・態度、読む能力で評価
12	【現代文編】《短歌と俳句》 ○短歌十六首 ○俳句十六句	・短歌、俳句の基本的読み方を習得する。 ・短詩形文学固有の表現特質を理解する。	短詩型作品を読み味わって、その魅力を理解し、自分の感性や観念の拡充・深化を図る。	20	関心・意欲・態度、話す・聞く能力で評価
1	【現代文編】《小説III》 ○なめとこ山の熊 ○空缶	・文体の特色や象徴的な表現の効果について考え、小説の鑑賞力を高める。	登場人物の心の動きに注意して、まとまった分量の小説を読み味わい、主題や特徴のある表現を捉える。	10	読む能力、知識・理解で評価
1	【現代文編】《評論III》 ○なぜ私たちは労働するのか ○命は誰のものなのか ○創造力のゆくえ	・抽象度の高い文章においても論理の展開に着目して、筆者の主張を的確に捉える。 ・労働、命について自分の考えを深める。	社会・自然科学系を扱った文章を読み、主張を踏まえたうえで「社会と自分との関係性」「多様性」などの現代的テーマについて自分の意見を持つ。		読む能力、知識・理解で評価
2	【漢文編】《文章》 ○雑説	・名文と呼ばれる文章を読み、作者のものの見方や考え方を理解する。	論説文としての論理の展開と巧みな比喩表現を把握して内容を理解し、作者の力強い主張を理解する。	15	関心・意欲・態度、読む能力で評価
2	【古文編】《軍記》 ○平家物語	・「平家物語」に特徴的な音便形に注意して生き生きと音読し、語り物としての魅力を味わう。	音読を通じて軍記物語のリズムを捉え、内容を理解して平安末期の動乱を押さえるとともに、敬語について理解する。		関心・意欲・態度、読む能力で評価
2	【漢文編】《小説》 ○復活	・文章に即して内容・テーマを読み取り、現代の物語への書き換えなどを通して作者の意図をより深く理解する。	文章に即して内容・テーマを読みとり、作者の意図を把握する。		関心・意欲・態度、読む能力で評価
3	【古文編】《紀行》 ○奥の細道	・人生を旅と見る芭蕉の人生観に触れ、ものの見方感じ方を深める。	紀行文に描かれた旅の情景や作者の心情を読み味わうとともに、俳諧の世界を理解し、各句の背景を踏まえて鑑賞する。	15	関心・意欲・態度、読む能力で評価
	【現代文編】《表現》 ○表現1～10	・適切な題材を選び、自分の考えが明確になるように、構成を工夫して書く。 ・これまで学んだ様々な表現技法を生かし、目的に応じ適切に選択したり、効果的に結合したりして総合的に表現する。	自分の考えが明確になるように、文章全体の構成を工夫して書く。 目的に応じて様々な表現技法を活用しつつ、グループで話し合って企画・立案し、発表し合う。		関心・意欲・態度、書く能力で評価

教科名	公民	科目名	現代社会	単位数	2 単位
対象学年	第1学年	対象コース	志学	履修形態	必修
科目の目標	人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 現代社会における諸課題の中で、社会の在り方生き方を考察する基盤として、幸福・正義・公正などについて理解し、現代社会に対する関心を高めて、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚する。</p> <p>(2) 現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解するとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察する。</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a. 関心・意欲・態度  現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄に関心を高め、意欲的に追究しているか。社会的事象を総合的に考察しようとする態度を身につけているか。平和で民主的なよりよい社会に実現に向けて参加、協力する態度を身につけているか。	b. 思考・判断・表現  現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄から課題を見出し、広い視野から多面的、多角的に考察しているか。課題について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。課題についての考察や判断の過程や結果を様々な方法で適切に表現しているか。	c. 資料活用の技能  現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。	d. 知識・理解  現代社会の政治、経済、社会、国際関係、人間としての在り方生き方にかかわる基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身につけているか。また、学び方を身につけているか。	

教科書、教材など  
教科書:現代社会(東京書籍)  
資料集:最新現代社会資料集2020(第一学習社)

授業形態 講義形式

### 年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	《第1部》私たちの生きる社会	三つのテーマについて、身近な生活とも関連付けて理解し、それぞれの課題について、様々な観点から考察する。	地球環境と資源・エネルギー  科学技術の発達と生命  情報化の進展と生活	6	a. 各テーマにかかわる基本的な問題に関心を高め、意欲的に追究しているか。 b. テーマについて社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。 c. 得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。 d. 各テーマの課題や事柄について理解し、その知識を身につけているか。
	5	《第2部》現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己のあり方生き方課	自己と社会はどのようにかかわりを持っているか。また青年としてどのように生きるべきかを考える。	現代社会と青年の生き方  よりよく生きることを求めて	6	a. 社会的事象を総合的に考察しようとする態度を身につけているか。 b. 人間にかかわる事柄から課題を見いだし、広い視野から多面的、多角的に考察しているか。 c. 得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。 d. 人間としての在り方生き方にかかわる基本的な課題や事柄について理解しているか。
	6	第2章 日本国憲法と民主政治	世界の政治体制を理解するとともに国際社会における日本の立場を理解する。	民主政治とは	8	

	7	日本国憲法における三大原理を確認し、民主社会の実現に向けた取り組みについて理解する。	日本国憲法と 基本原理	8	a. 平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身につけているか。
2	8	国民主権の原理に基づく議会制民主主義の方法や権力分立のあり方について理解する。	日本の政治機構 現代政治の特質と課題	2	b. 課題についての考察や判断の課程や結果を様々な方法で適切に表現しているか。
	9	「人の支配」、「法の支配」それぞれの定義を理解し現代の政治にどのように反映されているか理解する。	個人の尊重と 法の支配	8	c. 現代社会の政治にかかる基本的な問題に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。
10	第3章 個人の尊重と 法の支配	個人や企業がどのような目的で経済活動を行っているのかを理解し、経済活動に対してどのような責任があるのかを考察する。	経済のしくみ 変化する日本経済 豊かな生活の実現	8	d. 現代社会の政治にかかる基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身につけているか。
11	第4章 現代の経済と 国民福祉	貿易と国際分業、外国為替の仕組み、国際収支等を理解する。また、戦後の国際経済の枠組みを理解する。	国際経済の しくみと動向	4	a. 現代社会の経済・国際関係にかかる事柄に关心を高め、意欲的に追究している b. 現代社会の経済・国際関係にかかる事柄から課題を見いだし、広い視野から多面的、多角的に考察している c. 得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。
12	第5章 国際社会と 人類の課題	国際連合、東西対立等国際政治が抱える諸問題について様々な観点からえられるようにする。 国際経済、国際政治の基本を理解し、日本が国際社会において果たすべき役割を考察する。	国際政治の しくみと動向 国際社会の 現状と課題	6	d. 現代社会の経済・国際関係にかかる基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身につけているか。 a. 社会的事象を総合的に考察しようとする態度を身につけているか。 b. 人間にかかる事柄から課題を見いだし、広い視野から多面的、多角的に考察しているか。 c. 得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身につけているか。 d. 人間としての在り方生き方にかかる基本的な課題や事柄について理解しているか。
3	1	現代社会の課題を、幸福、正義、公正といった倫理的な視点にたって探求する。	個人と社会 社会と社会 現役世代と将来世代	6	a. 社会的事象を総合的に考察しようとする態度を身につけているか。 b. 課題について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。 c. 課題に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し効果的に活用することができるか。 d. 現代社会にかかる基本的な課題について理解し、その知識を身につけているか。また、学び方を身につけているか。
3	2	《第3部》 ともに生きる社会をめざして			

教科名	数学	科目名	数学Ⅰ+Ⅱ	単位数	3+1 単位	
対象学年	第1学年	対象コース	志学	履修形態	必修	
科目の目標	<p>【数学Ⅰ】数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>【数学Ⅱ】いろいろな式、図形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>					
学習内容の概要	<p>〈数と式〉数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。(2次関数)2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>〈図形と計量〉三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考え方の有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>〈データの分析〉統計的基本的な考え方を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。</p> <p>〈式と証明〉整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。</p> <p>〈複素数と方程式〉方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようとする。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A: 数学への関心・意欲・態度	B: 数学的な見方や考え方	C: 数学的な表現・処理	D: 数量・図形などについての知識・理解		
	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。		
教科書、教材など	改訂版 高等学校 数学Ⅰ(数研出版)、改訂版 高等学校 数学Ⅱ(数研出版) チャート式 解法と演習 数学Ⅰ+A(数研出版)、チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B(数研出版)					
授業形態	講義・演習					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	第1章 数と式	2次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりする。	第1節 式の計算 1 整式の加法と減法 2 整式の乗法 3 因数分解	12	A/B/C/Dの総合評価
	5		数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をする。	第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 発展/2重根号	12	
			不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めたり1次不等式を事象の考察に活用したりする。	第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式		

	研究 最大公約数・最小公倍数の性質  3.整数の割り算と商・余り			最大公約数と最小公倍数に成り立つ性質を利用して、2数の最大公約数と最小公倍数が既知のときにその2数を求めることができる。  B.整数aを正の整数bで割る割り算を、aとbの間に成り立つ等式としてとらえることができる。  C.2つの整数a、bを除数と余りを用いて表し、a+bなどの余りを求めることができる。  D.偶数、奇数の表し方を理解し、それを利用して簡単な整数の性質を証明することができる。
1	研究 自然数の積と素因数の個数 研究 和、差、積の余り  第2節 ユークリッドの互除法 4.ユークリッドの互除法		素因数分解しにくい大きな素因数をもつ2つの整数の最大公約数を求める最良の方法を学ぶ。さらに、ユークリッドの互除法は多くの利用価値があることを理解する。また、与えられた2数からユークリッドの互除法を用いて最大公約数を求める手順の逆をたどれば、その2数を用いて最大公約数が表せる。二元一次不定方程式では、特殊解を用いて一般解を求める学ぶ。また、ユークリッドの互除法を用いて、a、bが互いに素であるときの特殊解の求め方を学ぶ。	A.素因数分解をしなくても、互除法によって最大公約数が求められることに興味・関心をもつ。  B.互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれるごとを具体例から考察し、一般にも適用できることに気付く。  C.互除法を利用して、a、bが互いに素であるとき、 $ax+by=c$ を満たす整数x、yの組を求めることができる。  D.互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。
2	5.1次不定方程式			6 A.係数が小さい場合の1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。  D.1次不定方程式、整数解の意味を理解している。
3	第3節 整数の性質の活用 6.分数と小数		いろいろな数を表す仕組みを学び、あわせてそれがどのように利用されているかを学ぶ。記数法や小数(有限小数や無限小数)の性質を学ぶ。さらに、10進法をはじめ、コンピュータの原理である2進法などを学ぶ。	B.分数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を、割り算の余りによって考察することができる。  C.循環小数を表す記号を用いて、分数を循環小数で表すことができる。  D.分数が有限小数となるか循環小数となるかは、位取り記数法の底によって変わることもあることに関心をもち、有限小数と循環小数の違いが数の分類上の違いを表すものでないことに気付く。
3	7.n進法  課題学習			6 D.位取り記数法、10進法、2進法、n進法について理解している。  B.D.第1章～第3章で学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよさを認識する。

	10	7.作図	与えられた条件を満たす图形の軌跡を求める学ぶ。ここでは、中学校での学習内容を踏まえ、線分を与えた比に内分する点や外分する点、与えられた長方形と等しい面積をもつ正方形の作図などを学ぶ。		C.2つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができる。 D.2つの円の共通接線の長さを求めることができる。
2	11	第2節 空間图形 8.直線と平面	平面と直線の位置関係、平面と直線とのなす角や三垂線の定理などを学ぶ。古代ギリシャのプラトンの時代から正多面体(プラトン图形という)が5つしかないことが知られていたが、オイラーの定理を用いて、その理由を学ぶ。	8	A.数学で扱う作図と、日常において图形をかくことでは、何が違うか考えてみようとする。 B.平行線と線分の比の性質を利用すると、内分点・外分点が作図できたり、 $b/a$ や $ab$ の長さをもつ線分が作図できることに気付く。 C. $\sqrt{a}$ の長さをもつ線分の作図の方法を文章で表現し、得られた图形が確かに条件を満たすことを証明することができる。 D.中学校で学んだ垂線の作図を知っている。
	研究 三垂線の定理	9.空間图形と多面体			B.空間における直線と平面が垂直になるための条件を、正四面体に当てはめて考察できる。 D.空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。 A.三垂線の定理について関心をもち、その意味を理解しようとする。
12	研究 多面体の体積・種類 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1.約数と倍数	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。	すべての整数は必ず素数の積に分解されて、その表し方はただ1つであることを理解する。また、2、3、4、5、6、8、9の倍数の見分け方を学ぶ。さらに、整数を割った余りで分類する考えは、倍数の考えをさらに発展させたもので、頻繁に現れるのでしっかり理解する。	8	A.オイラーの多面体定理を利用すると正多面体の面の形から面の数が限定されることに関心を持つ。 C.多面体どうしの関係を利用して正多面体の体積を求めることができる。 D.正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。
	2.最大公約数・最小公倍数				B.平方数になる条件を、素因数分解の結果から考察することができます。 C.ある整数 $a$ の倍数は $ak$ と表せるを使つて、簡単な命題を証明することができる。 D.自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解が利用できることを理解している。
3	1			4	B.2数の最小公倍数は2数の素因数のすべてを因数とするということを理解し、それを利用して問題を考察することができる。 D.素因数分解を利用して最大公約数・最小公倍数を求める方法を理解している。

	8	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1.三角形の辺の比  2. 三角形の外心、内心、重心	三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。	辺の長さと角の大きさとの関係、内角・外角の2分線と辺の比などを学ぶことにより、図形に対する直観力・洞察力を養う。	2	B.図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察できる。 C.証明の際に適切な補助線を引いて考察することができる。 D.線分の内分・外分、平行線と比などの基本事項を理解している。
	9	3. チェバの定理・メネラウスの定理			8	A.三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 B.図形の性質を証明するのに、間接的な証明法である同一法を適用することができる。 C.三角形の外心、内心、重心に関する性質や相互関係を証明することができる。 D.三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。
2	10	研究 三角形の辺と角 4.円に内接する四角形  5.円と直線  研究 方べきの定理の逆  6.2つの円	円周角の定理とその逆、円に内接する四角形の性質及び四角形が円に内接するための条件、円の接線と接点を通る弦とのなす角の性質、方べきの定理及び2の円の位置関係について学び、それらを活用できる。	円周角の定理とその逆、円に内接する四角形の性質及び四角形が円に内接するための条件、円の接線と接点を通る弦とのなす角の性質、方べきの定理及び2の円の位置関係について学び、それらを活用できる。	8	A.三角形の外接円は必ず存在するが、三角形以外の場合には必ずしも存在しないことから、四角形が円に内接する条件を考察しようとする。 D.円に内接する四角形の性質を利用して、角度を求めるたり、円と四角形の様々な性質を証明できる。  B.接線と弦の作る角についての定理を証明する際に場合分けをしながら考察することができる。 D.接線と弦の作る角の性質を利用して、角度を求めることができる。
						D.方べきの定理を利用して、線分の長さを求めたり、図形の性質を証明することができる。 方べきの定理の逆を理解し、それを用いて図形の性質を証明することができる。
						A.2つの円の位置関係の判定条件として、中心間の距離と半径の関係について、積極的に考察しようとする。 B.2つの円の位置関係を、動的な面から観察することができる。

		4. 組合せ			A.順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。 B.既知の順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 C.具体的な問題に対して、組合せの考え方を利用して式に表すことができる。 D.組合せの用語、記号、公式を理解し、それを利用できる。  D.重複組合せについて理解し、その総数を求めることができる。
5	研究 重複を許して取る組合せ 第2節 確率 5. 事象と確率		試行や事象の考えを明確にして、確率の基本的な法則をまとめ、余事象などについて理解する。	8	A.くじを引くことを何回も繰り返す実験などを通して、統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。 B.試行の結果を事象としてとらえ、事象を集合と結びつけて考えることができる。 C.試行の結果の事象を集合として表すことができる。 確率の意味、試行や事象の定義を理解し確率の求め方がわかる。
6	6. 確率の基本性			8	A.加法定理などを利用して、複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。 B.集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができます。 C.確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求めることができます。 D.確率の基本性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。
1	7. 独立な試行と確率		独立な試行とその繰り返しについて、身近な事例をもとにして、確率の計算について理解を深める。	8	A.独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。 B.独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 C.試行が独立か、独立でないかを判断できる。 D.独立な試行の定義を理解し、その確率の求め方がわかる。
7	8. 条件付き確率  研究 原因の確率		条件のつき確率について、具体例を通して、その意味を理解し、いろいろな条件つき確率を求めることができるようになる。また、身近な事例をもとに、少し複雑な確率の計算について学ぶ。	8	A.条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。 C.条件付き確率を、記号を用いて表すことができる。 D.条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。 D.条件付き確率を利用して原因の確率が求められる。

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2 単位	
対象学年	第1学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修	
科目の目標	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
学習内容の概要	<p>『場合の数と確率』 数え上げの原則や順列・組合せについて理解し、事象を数学的に考察できるようにする。また、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、確率を活用する能力を伸ばす。</p> <p>『図形の性質』 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。</p> <p>『整数の性質』いろいろな数を表す仕組みを学び、あわせてそれがどのように利用されているかを学ぶ。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A: 数学への関心・意欲・態度  場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	B: 数学的な見方や考え方  場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	C: 数学的な表現・処理  場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けていている。	D: 数量・図形などについての知識・理解  場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。		
教科書、教材など	教科書:改訂版 高等学校 数学A(数研出版) 補助教材:チャート式 解放と演習 数学I+A(数研出版)					
授業形態	講義・グループ学習・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	数え上げの原則として、和の法則と積の法則を確実に理解する。また、樹形図などを用いて基本的な個数処理について学ぶ。	6	A.集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 B.ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。 C.具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求めることができる。 D.集合の要素の個数の公式を利用できる。
		2. 場合の数				
		3. 順列		順列・組合せの数について学び、それを具体的な場面に活用できるようする。		
	5					A.樹形図を利用して、積の法則から順列の総数を求める式を導こうとする。 B.特殊な条件が付く順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 C.順列の総数や階乗を記号で表し、それを活用できる。 D.順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。

	第1章 式と証明	3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をする。整式の除法や分数式の四則計算について理解し、簡単な場合について計算をする。	第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算		
12		等式や不等式が成り立つことを、それらの基本的な性質や実数の性質などを用いて証明する。	第2節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明	16	
1	第2章 複素数と方程式	数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をする。二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解する。	第1節 複素数と2次方程式の解 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係	8	
2		因数定理について理解し、簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求める。	第2節 高次方程式 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式	12	
3	演習および予備			12	

	第2章 集合と命題	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用する。	第4節 集合と命題 9 集合 10 命題と条件 11 命題とその逆・対偶・裏 12 命題と証明	
6	第3章 2次関数	事象から2次関数で表される関係を見出す。また、2次関数のグラフの特徴について理解する。 2次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりする。	第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ  第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	16
7		2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を2次不等式で表し2次関数のグラフを利用してその解を求める。	第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係	16
8			7 2次不等式	4
9	第3章 図形と計量	鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める。	第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張	16
10		正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。	第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	16
11	第4章 データの分析	四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明する。 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて2つのデータの相関を把握し説明する。	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関	16

教 科 名	理科	科 目 名	物理基礎	単 位 数	2 単位
対 象 学 年	第 1 学年	対象コース	志学コース	履 修 形 態	必修
科 目 の 目 標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	1 物体の運動とエネルギー(物体の運動、力と運動、仕事とエネルギー) 2 物理現象とエネルギー(熱とエネルギー、波とエネルギー、電気とエネルギー、エネルギーとその利用)				
科 目 の 評 価 基 準 (観点及びその趣旨)	A:関心・意欲・態度  日常生活や社会との関連を図りながら物理現象への関心をもち、自然現象に対し探求していく態度を身につけている。	B:思考・判断・表現  物理や物理現象を通して、自然現象の中に問題を見いだし、科学的に考察した考えを表現できている。	C:観察・実験の技能  物理や物理現象について、目的意識をもって観察・実験を行い、物理学的に探求する能力と技術を身につけている。	D : 知 識 ・ 理 解  物理学の基本的な概念や原理・概念を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。	
教科書、教材など	教科書:改訂版物理基礎(数研出版)				
授 業 形 態	講義、問題演習、振り返りを含んだ形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験を行う。				

年 間 授 業 計 画					
学 期	月	单 元	单 元 の 目 標	学 習 内 容 (実験・実習等)	時 间
1	4	単位と次元など	基本単位や組立単位、次元、有効数字の考え方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位系</li> <li>・次元</li> <li>・有効数字</li> </ul>	6
	5	第2編 热 第1章 热とエネルギー 1 热と热量 2 热と物質の状態 3 热と仕事 4 不可逆変化と热機関 探究活動	プラウン運動などの観察を通して、原子や分子の热運動と温度の関係を定性的に理解する。また、热運動と物質の三態変化、絶対温度、潜热の関係を理解する。热量と熱容量、比热の関係を理解し、热を定性的に扱えるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対温度</li> <li>・熱量の保存</li> <li>・比热と熱容量</li> <li>・熱力学第一法則</li> <li>・熱機関</li> </ul>	6
	6	第3編 波 第1章 波の性質 1 波と媒質の運動 2 波の伝わり方	波の基本的な性質を理解し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなどを量的に扱えるようになる。また、横波と縱波の違いや、波の独立性、重ね合わせの原理を理解し、反射について観察や作図について学び、定常波ができる仕組みを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・波の基本公式</li> <li>・横波と縦波</li> <li>・定常波</li> <li>・波の反射</li> <li>・波の屈折</li> <li>・波の回折</li> </ul>	8
	7	第2章 音 1 音の性質 2 発音体の振動と共振・共鳴 探究活動	空間を伝わる音波は空気を媒質とする縱波である(真空中では音波は伝わらない)。「音の屈折・音の回折・音の干渉」を扱い、音波の波としての諸性質を説明する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音の三要素</li> <li>・弦と気柱の振動</li> </ul>	8

2	8 9 10 11 12	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1 速度 2 加速度 3 落体の運動	物体の運動を測定し、その運動を変位・時間のグラフや速度・時間のグラフで表すことなどを通して、変位や速度などの物体の運動の基本的な表し方について理解する。	・速度の合成、相対速度 ・等加速度運動の式 ・自由落下 ・鉛直投射 ・水平投射 ・斜方投射	2 8 8	日常見慣れている様々な運動を、A物理的な現象として、動きの規則性やその動きを生じさせている原因を解明しようという意欲が見られる。 自由落下や鉛直投射はいずれもC等加速度直線運動の一種であること、斜方投射は鉛直方向には投げ上げ、水平方向には等速直線運動をしていることを理解している。
		第2章 運動の法則 1 力とそれはたらき 2 力のつりあい	物体にはたらく様々な力を見抜きベクトルで表す方法を身につけるとともに、それらの力がつり合う条件を見出せるようになる。また、運動の法則を理解し、これらの法則を用いて物体にはたらく力と運動との関係を分析できるようになる。	・力の三要素 ・力の分解と合成 ・力のつりあい	8	動の原因となる力を探る過程を通して運動の法則を理解し、さらに未知の運動を解くことができる。 力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。作用・反作用の2力とつりあいの2力との相異点を説明できる。
		3 運動の法則 4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受けれる力	物体は力を受けると加速すること、また、生じる加速度の大きさは質量に反比例し、力の大きさに比例することを、実験をもとにして理解させる。	・運動の法則 ・摩擦力 ・浮力・水圧 ・空気抵抗	8	速度、加速度、力を実験器具を使って測定しながら運動を解析し、量的な関係を捉えることができる。
		第3章 運動と力学的エネルギー 1 仕事 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存	エネルギーを測るものさしとしての仕事の定義、および仕事の原理と仕事率について理解し、また、仕事をする能力としての運動エネルギーと位置エネルギーの表し方を理解する。力学的エネルギー保存則やその適用条件について理解を深める。	・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギー保存則	8	ものが運ばれるという事実を物理的な現象として捉え、運ばれた量と運ぶもどとなる動力源について、様々な類似事象を比較し、事象に共通する量的な関係性を探ろうとしている。 仕事をする能力について、位置、運動、熱といった一見異なるエネルギー間に換算できる量的法則性があることを理解し、応用して考察できる。
		探究活動				
	1 2 3	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1 電気の性質 2 電流と電気抵抗 3 電気とエネルギー	静電気や電流など、電気に関わる法則を学習し、さらに発電機や交流と電磁波の関係について理解する。	・電荷と電気量 ・抵抗率と合成抵抗 ・電力と電力量	4	物体の中にある電荷の振る舞いについて観察でき、実験を再現できる。電流計、電圧計、検流計などの測定器を正しく使える技能を身につけ、グラフ処理などを通じて法則性を確認できる。
		第2章 交流と電磁波 1 交流 2 電磁波	人類が利用することができる各種エネルギーの特性や利用方法について学ぶ。	・交流と直流 ・交流の性質 ・電気の利用 ・電磁波	6	電気と磁気に關する基本的な概念や原理・法則を理解できる。またそれらの概念や原理・法則を用いて系統的に考察できる。 交流や電磁波の基本的振る舞いについて知識があり、理解できる。
		探究活動				
		第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 1 エネルギーの移り変わり 2 エネルギー資源と発電 第2章 物理学が拓く世界	これまで学習した物理が私たちの社会でどのようなものに応用されているかを学び、物理を学ぶ意味について理解する。	・エネルギーの変換 ・原子力 ・太陽光 ・その他のエネルギー資源 ・摩擦と自動車 ・エネルギーの有効利用 ・見えないものを見る	6	日常的に利用されているエネルギーについて興味・関心を持ち、その特徴などについて考えようとする。 身近に利用しているエネルギーについて観察して、それらの特性を理解できる。 物理的な側面からエネルギーをきちんととらえることができる。

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2 単位	
対象学年	第1学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
学習内容の概要	中学校理科との関連を考慮しながら、生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探求する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。内容は代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 観察・実験の技能	D 知識・理解		
	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心をもち、自然現象に対して探求していく態度を身につけている。	生物や生物現象を通して、自然現象の中に問題を見いだし、科学的に考察した考えを表現できている。	生物や生物現象について、目的意識をもって観察・実験を行い、生物学的に探求する能力と技術を身につけている。	生物学の基本的な概念や原理・概念を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。		
教科書、教材など	教科書:改訂版生物基礎(教研出版)					
授業形態	講義形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験および問題演習を行う。					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1 学期	4	生物の特徴	生物は多様であるが、細胞構造などの共通性や、共通の起源を学習する。また、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して生物の代謝とエネルギーの取り出しについて理解する。	生物の多様性と共通エネルギー代謝 光合成と呼吸	6	・生物のもつ特徴としての多様性と共通性、代謝、生物のエネルギーを扱うミトコンドリアと葉緑体について興味関心をもつ。
	5				6	・生物のもつ共通性と多様性が進化に基づくこと、酵素の働きと反応の調節の関係、生命活動にとってエネルギーとはどのようなものかを理解している。 ・原核生物と真核生物、カタラーゼによる過酸化水素の分解、葉緑体の観察を行う。
						・細胞構造の生物の共通性、生命活動の中で酵素やATPがどのような役割を担っているのか、呼吸と光合成の内容を理解する。

	6 7	遺伝子とそのはた DNAの構造、遺伝情報は塩基配列であることを理解し、タンパク質合成について学習する。また、遺伝子の複製と発現について学習する。	遺伝情報とDNA 遺伝情報の発現 遺伝情報の分配	8	・遺伝子はDNAであること、転写と翻訳の過程、遺伝情報の分配について興味関心をもつ。 ・塩基配列に遺伝情報があるということ、タンパク質とDNAの関係、遺伝情報の発現と細胞の分化の関係を考察する。 ・試料からDNAを抽出する方法、だ腺染色体の染色方法、細胞周期の各時期の時間の推定方法を学ぶ。 ・DNAの構造、アミノ酸の配列によるタンパク質の決定、DNAの分配を理解する。	A B C D
2 学期	8 9 10	生物の体内環境 恒常性のしくみについて理解し、循環系、肝臓と腎臓、自律神経系、内分泌系、免疫について学習する。	体液という体内環境 腎臓と肝臓 神経とホルモンによる調節	2 8 8	・体内環境、自律神経系とホルモンによる調節作用、生体防御のしくみについて探求しようとする。 ・体液とはたらき、腎臓と肝臓の機能、自律神経とホルモンが協同で作用する調節のしくみ、自然免疫と獲得免疫について説明できる。 ・腎臓の構造、運動による心拍の変化、赤血球の正確な細胞像を観察できる。 ・内部環境とその恒常性の維持について、尿生成の重要性、血糖濃度や体温についての恒常性のしくみ、自然免疫と獲得免疫の機構を理解する。	A B C D
	11 12	植生の多様性と分布 植生について、構造や遷移のしくみを理解する。また、世界と日本のバイオームと気温と降水量の関係を学習する。	さまざまな植生 植生の遷移 気候とバイオーム	8 8	・森林では階層構造を形成すること、植生遷移について、植生と環境のかかわりについて興味関心をもつ。 ・植生の特徴をとらえることができるか、植物どうしの資源を巡る競争、バイオームの分布について考察する。 ・土壤にどのような種子が存在するか、照葉樹と夏緑樹の違いをまとめることができるか。	A B C

					・遷移が起きるしくみ、バイオームが気温と降水量の違いに起因する、身近な植生を理解する。	D
3 学 期	1  2  3	生態系とその保全  生態系の成り立ち、物質とエネルギーの循環について理解する。その上で、生態系と環境問題について学習する。	生態系  物質循環とエネルギーの流れ  生態系のバランス  人間活動と生態系の保全	4  6  6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系とは何か、生態系での物質やエネルギーの移動、生態系におけるバランス、生態系における人間生活の影響について興味関心をもつ。</li> <li>・作用と環境形成作用や相互作用がどのようなものであるのか、生態系のエネルギー移動、生態系のバランスが保たれるしくみ、そのバランスが人類の活動でどのように変化しつつあるのかを理解できているか。</li> <li>・土壤動物であるミミズのはたらき、イオン濃度を適切に調べられるか、身近な外来生物をインターネットで調べることができる。</li> <li>・生態系を1つのまとまりとして捉えることができるか、窒素循環や窒素固定などについての理解、生態系のバランス、これまでの学習を通じて得た知識を活用して、環境問題について保全の方法を具体的に考えることができる。</li> </ul>	A  B  C  D

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位		
対象学年	第1学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修		
科目の目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。						
学習内容の概要	体づくり運動、体ほぐし、体力を高める運動、各種目における基本技能の習得、各種目のルール等の知識習得、生徒の自主性によるゲーム運営と安全への意識の向上。						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断	運動技能	知識・理解		
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、自ら進んで計画的に運動しようとする。		自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と各種運動の特性に応じた技能を高め、体力向上のための合理的なを行い方を身につけている。	運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行き方を理解し、知識を身につけている。		
教科書、教材など	特になし						
授業形態	実技(男女別合併授業)						
年間授業計画							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
1	4	オリエンテーション	年間計画を十分に理解し、授業に積極的に参加できるようにする。	授業の内容、方法、評価などについて説明する。	6	授業中の行動の観察	
	5	体育理論	スポーツの歴史、現代スポーツの特徴。	スポーツの歴史、技術、ドーピングについて学習。	6	授業中の行動の観察 評価テスト(総時数6時間) 授業中の行動の観察 実技テスト	
		体づくり運動	体づくり運動の特性を理解し、体をほぐしたり体力を高めたりする。	城北体操の習得。仲間の体や心の状態に気付き、仲間との交流を図る。			
		新体力テスト	自己の体力と運動能力を把握する。	正しい測定を行い、自己の能力診断をする。			
		6	陸上競技	自己の能力に応じて運動技能を高め、競技したり記録を高める。		各種目の基本技能の習得。	8
	7		バレーボール ソフトボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	基本動作を習得し、協力してゲームができるようにする。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
	8		サッカー	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	基本動作を習得し、協力してゲームができるようにする。	2	授業中の行動の観察 実技テスト
	9		バスケットボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	基本動作を習得し、協力してゲームができるようにする。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
	10 11 12	1	バドミントン	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	基本動作を習得し、ペアで協力してゲームができるようにする。	4	授業中の行動の観察 実技テスト
		2	ダンス	感情をこめて踊ったり、仲間と一緒に楽しく踊ったりし、発表できるようにする。	ダンスの特性を理解し、基本動作やリズム感、協調性を養うようにする。	6	授業中の行動の観察 作品の評価
3							※ 年間を通しての出席状況

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1単位							
対象学年	第1学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修							
科目の目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。											
学習内容の概要	<p>①現代社会と健康 わが国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること、および環境を改善していく努力が必要であることを理解できるようにする。</p>											
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>思考・判断</th> <th>技能・表現</th> <th>知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康に対する関心を持ち、健康を保持増進させるためには何が必要かを考え、実行できる態度が身についている。また、日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考える意欲をもつ。</td> <td>健康についての思考を深め、その日常での活用方法を適切に判断し、健康行動の適切な選択ができる。</td> <td>保健の授業を通して、必要な基本的技能を習得し、実際の場面で適切な行動がとれるようになる。</td> <td>保健に関する基礎的な知識や、ヘルスプロモーションの理念を理解できる。また、保健に関するさまざまな分野における知識を身につけ、その役割について理解できる。</td> </tr> </tbody> </table>		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	健康に対する関心を持ち、健康を保持増進させるためには何が必要かを考え、実行できる態度が身についている。また、日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考える意欲をもつ。	健康についての思考を深め、その日常での活用方法を適切に判断し、健康行動の適切な選択ができる。	保健の授業を通して、必要な基本的技能を習得し、実際の場面で適切な行動がとれるようになる。	保健に関する基礎的な知識や、ヘルスプロモーションの理念を理解できる。また、保健に関するさまざまな分野における知識を身につけ、その役割について理解できる。		
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解									
健康に対する関心を持ち、健康を保持増進させるためには何が必要かを考え、実行できる態度が身についている。また、日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考える意欲をもつ。	健康についての思考を深め、その日常での活用方法を適切に判断し、健康行動の適切な選択ができる。	保健の授業を通して、必要な基本的技能を習得し、実際の場面で適切な行動がとれるようになる。	保健に関する基礎的な知識や、ヘルスプロモーションの理念を理解できる。また、保健に関するさまざまな分野における知識を身につけ、その役割について理解できる。									
教科書、教材など	教科書:最新保健体育(大修館書店)、最新保健ノート(大修館書店)											
授業形態	教室での一斉授業、グループ学習、ビデオ学習											
年間授業計画												
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価						
1	4	単元1現代社会と健康 ①健康の考え方と成り立ち	健康とは何かについての考え方を理解する。	WHOの健康の理念	3							
	5	②私たちの健康のすがた	健康水準や生活習慣病について理解する。	健康寿命と平均寿命の違い	3							
	6	③健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり	適切な意志決定・行動選択とヘルスプロモーションについて理解する。	ヘルスプロモーションの理念								
	7	④生活習慣病の予防	生活習慣病を予防するための調和の取れた生活の実践ができるようにする。	生活習慣病を防ぐためのライフスタイル	4							
	8	⑤食事と健康	健康に過ごすための食事や運動、休養について理解を深める。	自らの食生活の現状把握と、バランスの取れた食事の必要性								
	9	⑥運動・休養と健康	健康に過ごすための食事や運動、休養について理解を深める。休養について理解を深める。	具体的な日常生活の振り返りと、適切な休養の必要性	4	定期考査 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する						
2	10	⑦喫煙と健康	喫煙に関する理解を深め、適切な意志決定や行動選択ができるようにする。	たばこの有害物質から引き起こされる様々な疾病	1							

9	⑧飲酒と健康  ⑨薬物乱用と健康	飲酒に関する理解を深め、適切な意志決定や行動選択ができるようにする。  薬物乱用に関する理解を深める	未成年者の飲酒 アルコール摂取による心身への影響  薬物依存と薬物乱用者が引き起こす社会問題	4
10	⑩感染症とその予防 ⑪性感染症・エイズとその予防	エイズを含めた感染症の予防に正しい知識が必要なことを理解する。	感染症予防対策についての理解(図1の活用)  エイズの正しい知識と、共に生活できる社会づくりについて	4
11	⑫欲求と適応機制  ⑬心身の相関とストレス	欲求や適応機制には様々な種類があることを理解する。  精神と身体の密接な関連を理解する。	欲求不満に対する対処法(図3の活用)  ストレスへの対処と心身相関	4
12	⑭心の健康のために  ⑮交通事故の現状と要因	ストレスに関する理解と自己実現を図るために何をすればよいかを理解する。  交通事故の要因を知り、交通事故を防止するために車両の特性や、安全な運転、自他の生命を尊重する態度および交通環境の整備などが重要であることを理解する。	自己実現についての理解  わが国の交通事故の特徴について(図1・2の活用) 教科書の事例をもとにした交通事故の3つの要因	4
3	⑯交通社会を防ぐために	交通事故の責任や補償問題を知り、加害事故を起こさないような努力が必要であることを理解する。	刑事上、民事上、行政上の責任について  法的整備、交通環境の整備、車両の安全性	2
	⑰応急手当の意義とその基本  ⑱日常的な応急手当	怪我や熱中症に対する応急手当の適切な手順、方法を理解する。応急手当の意義、知識を理解する。  怪我や熱中症に対する応急手当の適切な手順、方法を理解する。	傷病者を発見した時に確認、観察するポイントを理解する AED(自動体外式除細動器)  怪我や熱中症に対する適切な処置	3
	⑲心肺蘇生法の原理とおこない方	心肺蘇生法の正しい手順や方法について理解を深めるとともに、その重要性を理解する。	<グループ学習> 適切な手順の確認 ダミー人形を使った心肺蘇生法の実習	3

教科名	芸術	科目名	音楽I	単位数	1 単位	
対象学年	第1学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に対する興味・関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。</li> <li>・音楽的感性・技能を身に付け、音楽の生み出す曲想やリズムなどの美しさを感じ取りながら表現する能力を養う。</li> </ul>					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽理論の基礎～音楽を学習する上での最も基礎的な音楽上の決り事について学習する。</li> <li>・実技～アルトリコーダーを使用し、独奏曲や二重奏曲をグループ学習で学ぶ。</li> <li>・鑑賞～バロック時代からの作曲家の紹介と、その作品を鑑賞する。</li> <li>また、音楽に関わりの深い映画を鑑賞する。</li> </ul>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	<p><b>意欲・関心・態度</b> 音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。</p>		<p><b>芸術的な感受や表現の工夫</b> 感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り創造的な音楽活動の工夫をする。</p>	<p><b>創造的な表現の技能</b> 自己のイメージをもち創造的な表現をするための技能を身に付けている。</p>	<p><b>鑑賞の能力</b> 多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。</p>	
教科書、教材など	MOUSA1(教育芸術社) アルトリコーダー					
授業形態	講義、実技、鑑賞					
<b>年間授業計画</b>						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション 音楽理論の基礎①	音楽理論の基礎を身につける。	五線 音符と休符 音名 基礎練習 (音階・タンギング) 二重奏 「主は冷たい土の中に」	3 3 4 4	基礎的な音楽理論が理解できた
	5	アルトリコーダー実技	ハ長調の運指を覚える。 タンギングを使えるようにする。	「サウンドオブミュージック」	4	正確な運指とタンギングで演奏することができたか。
	6				4	ミュージカル映画の中の音楽を味わうことができたか。
	7				4	
2	8	音楽理論の基礎②	音楽理論の基礎を身につける。	音階と調号 音程と和音 拍子 音の強弱に関する記号 速度記号	1 4 4	基礎的な音楽理論が理解できた
	9	アルトリコーダー実技	レガート奏法を身につける。 映画と映画中の音楽を味わう。	二重奏「もののけ姫」 二重奏「エーデルワイス」 「陽のあたる教室」	4	正確な運指とレガートで演奏することができたか。
	10				4	映画の中の音楽を味わうことができたか。
	11				4	
	12				4	
3	1	アルトリコーダー実技 鑑賞	B♭の運指を覚える。 バロック時代～古典派の作曲家の作品を味わう。	二重奏「ビリーブ」 バッハ ヘンデル モーツアルト ベートーベン	2 3 3	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。 作曲家の生き立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。

教科名	芸術	科目名	美術I	単位数	1 単位		
対象学年	第1学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修		
科目の目標	美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、描写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、美術の伝統と文化についての理解を深める。						
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロッキー・デッサン…手や身の回りの物、人物のクロッキー・デッサン制作を行う。</li> <li>色彩構成…色彩についての学習を通じ様々な表現法を身に付け、創作活動に生かす。</li> <li>有名画家の模写…有名画家の模写政策において、その歴史と文化も学び、今後制作する作品に用いる。</li> </ul> <p>名画や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</p>						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度 美の創造的活動の喜びを味わい、美の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	芸術的な感受や表現の工夫 名画のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な表現の技能 創造的な色彩表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	鑑賞の能力 日常生活の美術の効用や美の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、美のよさや美しさを創造的に味わっている。			
教科書、教材など	高校生の美術I（日本文教出版） スケッチブック、デザインセット、水彩色鉛筆						
授業形態	講義、実技、鑑賞						
年間授業計画							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
1	4	オリエンテーション	中学の学習を振り返るとともに、美の芸術的要素を理解し表現する。  美術の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、用法を身に付け、表現する。	「鉛筆で美しいグラデーションを表現しよう」	3	デッサンの内容を踏まえ、美の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。  鉛筆の明暗を美しく表現し、グラデーションの用法を身に付け、表現することが出来たか。	
	5	デッサン、クロッキー ピカソのデッサン		「手を描こう」	3		
	6			「小物を描こう」	4		
	7			「友達を描こう」	4		
2	8	色の仕組みの学習	色の仕組みについて理解し、その色の特性を生かして作品に取り組む。	「自分の好きな色を研究しよう」	1	色に関する様々な特性を理解するとともに、加色・減色を身に付け、表現することが出来たか。	
	9			「明度・彩度・色相を描こう」	4		
	10	模写①	有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。	「ゴッホを描こう」	4		
	11			「フェルメールを描こう」	4		
3	12	模写②	学習した水彩技法を生かし、意図に応じた個性的な表現の工夫をする。	「フェルメールを描こう」	2	有名画家の特徴を活かし、自らの意図に基づいた表現が出来たか。	
	1			「ゴッホを描こう」	3		
	2			「フェルメールを描こう」	3		

教科名	芸術	科目名	書道I	単位数	1単位		
対象学年	第1学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修		
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。						
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字仮名交じりの書…中学校書写の内容、また高校での古典臨書を生かし、感興や意図に応じた題材(書く言葉)の設定や創造的な作品制作を行う。</li> <li>漢字の書…中国及び日本の名筆(古典作品)の臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。</li> <li>篆刻(立体作品)…印の歴史と文化も学び、今後制作する作品に用いるための姓名印を彫る。</li> </ul> <p>古典や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</p>						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	芸術的な感受や表現の工夫 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な表現の技能 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	鑑賞の能力 日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。			
教科書、教材など	書I(教育図書) 鳥取城北高校選定筆、固形墨、半紙						
授業形態	講義、実技、鑑賞						
年間授業計画							
学期	月	單元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
1	4	オリエンテーション 漢字仮名交じりの書①	書写の学習を振り返るとともに、書の芸術的因素を理解し表現する。	「高校生活の抱負を書こう」	3	書写の内容を踏まえ、書の芸術的因素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。	
	5	漢字の書の学習① 【楷書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①孔子廟堂碑 ②九成宮醴泉銘 ③雁塔聖教序 【創作】 古典を基にした1字創作	3 4 4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、唐代の楷書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。	
	6	篆刻の学習	篆刻の歴史を理解し、立体作品に興味を持って取り組む。  書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、用筆法を身に付け、表現する。	「姓名印を彫ろう」	1	印に関わる歴史やその用途について理解を深めるとともに、技法を身に付け取り組むことができたか。	
	7			【古典臨書】 ①蘭亭序 ②風信帖 【創作】 古典を基にした多字創作	4 4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、行草書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。	
2	8			【古典臨書】 ①書譜	4	実用書への理解を深めるとともに、実生活に応用できる技術を身につけたか。	
	9			「今伝えたい言葉」を書こう	3		
	10	漢字の書の学習② 【行書の古典に学ぶ】		「今伝えたい言葉」を書こう	3		
	11						
	12	漢字の書の学習③ 【草書の古典に学ぶ】					
3	1	暮らしの中の書	冠婚葬祭に関する細字の知識と体裁よく書く技術を身に付ける。	実用細字を学ぶ (慶弔)	2	古典の特徴を活かし、自らの意図に基づいた表現が出来たか。	
	2	漢字仮名交じりの書②	学習した古典を生かし、感興や意図に応じた個性的な表現の工夫をする。				
	3						

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語I	単位数	4 単位	
対象学年	第1学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修	
科目の目標	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。</p> <p>1. 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることができる。</p> <p>2. 英語を通じて情報や考えを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を身につけることができる。</p>					
学習内容の概要	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。</p> <p>ア. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</p> <p>ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p> <p>エ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A:コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B:外国語表現の能力	C:外国語理解の能力	D:言語や文化についての知識・理解		
	コミュニケーションに关心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。		
教科書、教材など	Revised LANDMARK English Communication 1 (コ I 340)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	Lesson 1 What Can Blood Type Tell Us?	〈大衆文化・比較文化〉 血液型で性格はわかるか? 〈文法事項〉 動名詞、不定詞について理解する。	「血液型性格判断を信じる/信じない」の事項を含めて英語で自己紹介をする。	12	・血液型性格判断に対する日本人と外国人の考え方の差を理解する(A/B/C/D) ・「血液型性格判断を信じる/信じない」の事項を含めて英語で自己紹介をする。(A/B/C/D) ・日本で血液型性格判断が流行る2つの理由(血液型分布と血液型の認知度の差)を理解する。(A/B/C/D) ・血液型性格判断の科学性について理解する。(A/B/C/D)
	5	Lesson 2 Curry Travels around the World	〈食べ物・歴史〉 はるかなるカレーの旅 〈文法事項〉 分詞の後置修飾、現在完了形について理解する。	自分の好みのカレーについて意見交換をする。	12	・カレーのルーツや語源を理解する。(A/B/C/D) ・カレーがインドからイギリスに持ち込まれた経緯、イギリスで普及した経緯を理解する。(A/C/D) ・明治時代に日本に伝わったカレーが全国に普及した経緯を理解する。(A/B/C/D) ・自分好みのカレーについて意見交換をする。(A/B/C/D)

	6	Lesson 3 School Uniforms	〈学校・比較文化〉	制服の是非について意見交換をする。	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の制服事情を理解する。(A/B/C/D)</li> <li>海外の制服について理解する。(A/B/C/D)</li> <li>6か国の高校の制服採用率を理解する。(A/B/C/D)</li> <li>6か国の高校の制服に対する意見の違いを理解する。(A/B/C/D)</li> <li>制服の是非について意見交換をする。(A/B/C/D)</li> </ul>
	7	Lesson 4 Gorillas and Humans	〈動物・保護〉 知られざるゴリラの生態 〈文法事項〉 seemの用法、現在完了進行形について理解する。	絶滅危惧種についてレポートを書き、発表する。	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>山極教授のゴリラに対する関心を理解する。(A/B/C/D)</li> <li>ゴリラのチェストビーティングについて理解する。(A/B/C/D)</li> </ul>
	8	Tips for Listening 1, 2	まぎらわしい音 アクセント	英語の音声の特徴について理解し、聞き取れるようにする。	4	
	9	Lesson 5 "gr8" or great?	〈言語・比較文化〉 メールから生まれる新言語 〈文法事項〉 It ~ thatの形式主語構文、知覚動詞+O+動詞の原形 / 現在分詞について理解する。 〈言語・比較文化〉 メールから生まれる新言語 〈文法事項〉 It ~ thatの形式主語構文、知覚動詞+O+動詞の原形 / 現在分詞について理解する。	環境に優しい活動について意見交換する。	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語圏の若者が用いる新種の言語について理解する。(A/B/C/D)</li> <li>新種の言語の作り方を理解する。(A/B/C/D)</li> <li>新種の言語が使われる理由を理解する。(A/B/C/D)</li> <li>新種の言語がもたらす影響について理解する。(A/B/C/D)</li> <li>流行っている新種の言語について情報交換をする。(A/B/C/D)</li> </ul>
		Reading 1 Encyclopedia Brown	〈推理〉 12歳の少年が解き明かす難事件			
2	10	Lesson 6 Biodiesel Adventure	〈外国・環境〉 廃食油で世界中をドライブ 〈文法事項〉 過去完了形、使役動詞+O+動詞の原形について理解する。	環境に優しい活動について意見交換する。	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスコファイブ号の仕組みと周生さんが旅を始めた経緯を理解する。(A/B/C/D)</li> <li>アメリカ大陸での旅の経過を理解する。(A/B/C/D)</li> <li>ヨーロッパ～ロシアの旅の経過を理解する。(A/B/C/D)</li> <li>周生さんが旅を通じて得たことを理解する。(A/B/C/D)</li> <li>環境に優しい活動について意見交換する。(A/B/C/D)</li> </ul>
	11	Tips for Listening 3, 4		英語の音声の特徴について理解し、聞き取れるようにする。	16	

		Lesson 7 Eco-tour in Yakushima	<環境・世界遺産> 屋久島エコツアーエクスperience! <文法事項> 前置詞+関係代名詞、関係副詞について理解する。	訪れてみたい日本の世界遺産について書き、発表する。		・屋久島とエコツアーアイテムについて理解する。(A/B/C/D) ・屋久島の地理や気候について理解する。 ・屋久島の3つの観光地(白谷雲水峡、ウィルソン株、縄文杉)の特徴を理解する。(A/B/C/D) ・訪れてみたい日本の世界遺産について書き、発表する。(A/B/C/D)
12	12	Lesson 8 Mariko Nagai, Super Interpreter	<女性・職業> 女性通訳者の仕事にかける情熱 <文法事項> 分詞構文、関係代名詞whatについて理解する。	就きたい職業について意見交換する。	16	・通訳者の過酷な仕事について理解する。(A/B/C/D) ・長井さんの卓越した仕事ぶりを理解する。(A/B/C/D) ・長井さんが仕事の前の準備を大切にしていることを理解する。(A/B/C/D) ・長井さんが英語だけでなく日本語を大切にしていることを理解する。(A/B/C/D) ・就きたい職業について意見交換する。(A/B/C/D)
3	1	Lesson 9 Space Elevator	<宇宙・科学>エレベーターで宇宙へ！？ <文法事項>倍数比較、仮定法過去について理解する。	もしスペースエレベーターで宇宙へ行けたら何をしたいかについて意見交換する。	8	・スペースエレベーターの概要を理解する。(A/B/C/D) ・スペースエレベーターの仕組みを理解する。(A/B/C/D) ・カーボンナノチューブの概要を理解する。(A/B/C/D) ・もしスペースエレベーターで宇宙へ行けたら何をしたいかについて意見交換をする。(A/B/C/D)
	2	Tips for Listening 5, 6		英語の音声の特徴について理解し、聞き取れるようになる。	12	
	3	Lesson 10 Friendship over Time	<歴史・国際関係>トルコ軍艦エルトゥールル号の恩返し <文法事項>関係代名詞の継続用法、仮定法過去完了について理解する。	もし自分が大島村民であつたらどういう行動をしていたかについて自分の意見を書き、発表する。		・トルコ航空機による日本人救出劇の概要を理解する。(A/B/C/D) ・エルトゥールル号事件の経過と大島村民の活躍について理解する。(A/B/C/D) ・2つの事件の関わりについて理解する。(A/B/C/D) ・もし自分が大島村民であつたらどういう行動をしていたかについて自分の意見を書き、発表する。(A/B/C/D)
	3	Reading 2 The Freedom Writers Diary	<人権・反戦> 日記を通して成長していく生徒たちの軌跡	日記に表れる生徒たちの心の変化を理解する。 日記の背景にある人種問題や人種間抗争について理解する。印象に残っていることを日記に書く。	12	

教科名	外国語	科目名	英語表現 I	単位数	2 単位	
対象学年	第 1 学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。					
学習内容の概要	<p>具体的な言語活動は次の通り。</p> <p>ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。</p> <p>イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	<p>① コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <p>○ モデル会話に関心を持ち、聞き、発話をしようとしている。</p> <p>○ 間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。</p> <p>○ 積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。</p>	<p>② 表現の能力: 話すこと(S), 書くこと(W)</p> <p>○ 自分のことや与えられた課題について書くことができる。</p> <p>○ 自分のことや与えられた課題について話すことができる。</p>	<p>③ 理解の能力: 聞くこと(L), 読むこと(R)</p> <p>○ 発音に関する語句や英文を聞き、正しい解答を選べる。</p> <p>○ つなぎの言葉の使い方を理解している。</p>	<p>④ 言語や文化についての知識・理解</p> <p>○ いろんなトピックについて、内容を理解することができます。</p> <p>○ それぞれのページで学んだ文法を理解している。</p> <p>○ 学習した文法を理解し、知識として定着している。</p>		
教科書、教材など	Revised Vision Quest English Expression I Standard (61 啓林館 英 I 329)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	Lesson 1  Let's have lunch together sometime. 今度一緒にお昼ご飯を食べよう。	初対面での自然な会話の流れを学び、自己紹介や他者紹介ができる。	G 文の種類 F 相づちを打つ／聞き出す T 紹介 P イントネーション	6	A: ・モデル会話に関心を持ち、聞き、発話をしようとしている。 ・間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
	5	Lesson 2  Are you interested in Japanese anime? 日本のアニメに興味がある?	興味や関心を表す表現を学び、自らの興味・関心を紹介し、感想やおすすめの作品を伝えられる。	G 文型と動詞 F 言いかえる/話題を変える T 興味・関心 P リズム	6	B: S ・モデル会話を英語らしい発音で発話することができる。 ・例文を英語らしい発音で発話することができる。 ・自分のことや与えられた課題について話すことができる。 ・紹介するトピックを決め、発表できる。
	6	Lesson 3  I'm going to Okinawa with my family. 家族と沖縄に行く予定です。	予定を尋ねたり伝えたりする会話を学び、旅行のプランを作って、ペアで発表できるようになる。	G 自制 F 計画する/予定する T 旅行 P 母音	8	

	Lesson 4 I hear you've joined the soccer team. サッカーチームに入部してらしいね。	スポーツに関する表現を学び、スポーツ活動の経験を尋ねたり伝えたりできるようになる。	G 完了形 F 原因・理由を述べる T スポーツ P 子音	B: W ・学んだ文法を使って、文章を書くことができる。 ・自分のことや与えられた課題について書くことができる。 ・紹介するトピックを決め、原稿を書くことができる。 ・つなぎの言葉を使って文章を書くことができる。 ・パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。
2	7 Lesson 5 Can you tell me what <i>ammitsu</i> is like? 「あんみつ」ってどんなものか教えてくれる?	レストランでの会話表現を学び、食事の注文ができるようになる。	G 助動詞 F 許可を求める/依頼する T 食事 P カタカナ語	8 C: L ・モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選べる。 ・発音に関する語句や英文を聞き、正しい解答を選べる。 ・パートナーの言ったことを、正しく聞き取れる。 C: R ・つなぎの言葉の使い方を理解している。 ・パラグラフの構成を理解している。 ・文章の要点をつかむことができる。 D: ・いろんなトピックについて、内容を理解することができる。 ・それぞれのページで学んだ文法を理解している。 ・学習した文法を理解し、知識として定着している。
	8 Lesson 6 I'm so glad I can see the Sydney Opera House. シドニー・オペラハウスが見られてすごくうれしい。	観光地や名所について説明を聞き、感想を表せる。観光地の案内ができるようになる。	G 受動態 F 喜ぶ/驚く T 観光 P 数字の発音	2
	9 Lesson 7 It's very nice of you to say so. そう言ってくれてとてもうれしいな。	パーティで招待された時やプレゼントを渡す時、お礼をいう時の表現を学び、伝えられるようになる。	G 不定詞 F 感謝する/謝罪する T 交際 P アクセント	8
	10 Lesson 8 How about going to see a musical? ミュージカルを見に行かない?	娯楽への誘い方を学ぶ。趣味について話し合ったり、メールを書いたりできるようになる。	G 動名詞 F 勧誘する/申し出る T 娯楽 P つながる音	8
	11 Lesson 9 I'm for school uniforms. 私は学校の制服に賛成です。	学校の制服について賛成・反対意見を述べ合い、自分の意見を言うことができるようになる。	G 分詞 F 賛成する/反対する T ルール P 変わる音	8

3	12	Lesson 10 How do you spend Christmas? クリスマスはどう過ごすの?	日米の冬の行事について紹介し、文化の違いについて話し合う会話を学び、日本の文化や行事の紹介ができる。	G 関係詞 F 説明する T 文化 P 聴こえなくなる音	8	
	1	Lesson 11 Did you watch the debate on TV last night? 昨夜、テレビの討論を見た?	読書の必要性についての会話を学ぶ。日本の出生率の低下について自分の意見を表現できる。	G 比較 F 意見を述べる/主張する T 社会問題 P 世の中での強調	4	
	2				6	
	3	Lesson 12 I wish my parents were more understanding. 両親にもっと理解があればいいのに。	悩み事についての会話でアドバイスの仕方を学ぶ。悩んでいる人への助言や提案ができるようになる。	G 仮定法 F 助言する/提案する T 悩み事 P アメリカ英語とイギリス英語	6	
		復習	要点・要約の書き方 G : Grammar F : Function T : Topic P : Pronunciation			

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2 単位	
対象学年	第1学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修	
科目の目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。					
学習内容の概要	少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、自立して生活する能力と異なる世代とかかわり、共に生きる力を育てることを重視している。人の一生を見通し、衣食住生活についての科学的な理解を深めるとともに、授業以外の生活設計の学習を通して、生涯にわたってこれらの能力を活用して課題を解決できるようにする。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとともに、実践的な態度を身につけていく。		家庭や地域の生活について課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけていく。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	
教科書、教材など	教科書: 図説 家庭基礎(実教出版) 副教材: 2020生活学Navi(実教出版) 新図説家庭基礎学習ノート(実教出版) 講義について: 学級単位による授業 実験実習について: グループによる展開					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4 5 6 7	オリエンテーション 第一編 人とかかわって生きる	人の一生を生涯発達の視点で捉え、青年期の生き方を考えさせるとともに家族・家庭の意義や家族・過程と社会とのかかわりについて理解させ、男女が協力して家庭を築くことの重要性について認識させる。  子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉などについて理解させるとともに、さまざまな人々に対する理解を深め、生涯を通して共に支え合って生きることの重要性や家族及び地域や社会の果たす役割について認識させる。	授業の進め方について 第1章 自分らしい生き方と家族  第2章 子どもとかかわる 第3章 高齢者とかかわる 第4章 社会とかかわる	6 6 8 8	人の一生と家族・家庭について理解させる。 (関心・意欲・態度) ・現在の自分の生活の課題を発見しようとして、将来に向けて、その課題解決のために、意欲的に取り組もうとしている。 (思考・判断・表現) ・自分自身の生活を見つめ、自立へむけて課題を発見し、将来の発達課題ともかかわらせ自身の将来について思考、判断することができる。 (技能) ・自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートを通して、現在の自分の生活における課題をまとめることができる。 (知識・理解) 保育と高齢者福祉について理解させる。

(関心・意欲・態度)  
・子どもの世界について、自分の子どもの頃を思い起しながら、興味・関心を持ち、子どもの生活について、積極的にかかわりながら、理解しようとする。  
子どもをとりまく状況について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。

・高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について自分の身近な課題としてとらえ、積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。

・生涯を通しての社会福祉・社会保障のしくみや地域での支え合いのしくみについて、自分のこととして考え、意欲的に理解しようとしている。

#### (思考・判断)

・子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。

・高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。

・社会福祉や生涯を通しての社会保障制度のしくみについて、現在の生活課題と関連させながら考えることができる。

#### (技能・表現)

・子どもの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。

・高齢社会の現状や課題について情報収集、調査・研究をし、課題解決に向けて考えをまとめることができる。

・支え合う社会とは何かを主体的に考え、社会福祉についての考えをまとめることができる。また、社会に置いて自分のできることは何かを導き出すことができ、それを支えあいの活動などの実践にいかすことができる。

#### (知識・理解)

・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。

・高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴について理解している。

・社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解できる。

2	8 9 10 11	第二編 生活をつくる	栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解させ、食生活の分野に関心を持たせるとともに、必要な知識と技術を習得して安全と環境に配慮し、主体的に食生活を営むことができるようとする。	第1章 食生活をつくる	2 8 8 8	栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得させる。 (関心・意欲・態度) ・食生活の自立にむけて、今の自分の食生活について、課題を発見し、その課題解決にむけでの知識や技術を積極的に身につけようとしている。 (思考・判断・表現) ・栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりにむけての判断ができる。 (技能) ・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識をいかしながら、献立を作成することができる。 (知識・理解) ・自分自身の食生活の課題や食事の意義・役割、食生活をとりまく環境などについて理解できる。
12			被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、目的に応じて着装を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができるようとする。	第2章 衣生活をつくる	8	衣生活と家族の健康を理解させる。 (関心・意欲・態度) ・自分自身の衣生活の状況について関心を持ち、課題を発見し衣生活の改善・向上に積極的に取り組もうとする。 (思考・判断・表現) ・衣服材料・衣服管理・整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 (技能) ・材料の選択、日常の被服管理の方法を習得するとともに、日常着の修繕など、管理に必要な縫製技術を身につけている。 (知識・理解) ・住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係などについて理解している。
			住居の機能、住居と地域社会とのかかわりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、安全で環境に配慮した住生活を営むことができるようとする。	第3章 住生活をつくる		住生活と家族の健康を理解させる。 (関心・意欲・態度) ・住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、快適な住まいづくりや安全な住まいづくりに意欲的に取り組もうとする。 (思考・判断・表現) ・ライフステージと住空間の設計の関係、住環境について考えを深めることができる。 (技能) ・住まいの役割・機能について、地域の特徴などを踏まえて調査・研究ができる。 (知識・理解) ・住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係などについて理解している。

3	1 2 3	第三編 消費者として自立する	生活における絏済の計画、消費者問題や消費者の権利と責任などについて理解させ、現代の消費生活の課題について認識させるとともに、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任を持って行動できるようする。生活における絏済の計画、消費者問題や消費者の権利と責任などについて理解させ、現代の消費生活の課題について認識させるとともに、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任を持って行動できるようする。	第1章 消費行動を考える 第2章 経済的に自立する	4 6 6	<p>消費生活と環境を理解させる。 消費生活と環境を理解させる。(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近い将来の絏済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようし、短期・長期の絏済計画について意欲的に取り組もうとしている。</li> <li>・自分の将来設計を職業選択、人とのかかわり、絏済設計などを通して意欲的に考えようとしている。(思考・判断・表現)</li> <li>・現在の絏済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考え方を持ち、判断できる。</li> <li>・自分の生活設計について、生活資源の要素を考えながら、考えをまとめることができ。(技能)</li> <li>・絏済的自立に向けて、短期・長期の絏済計画にかかる実習を通して、人生設計を組み立てができる。</li> <li>・短期的・中期的・長期的な生活設計をすることができる。(知識・理解)</li> <li>・家庭絏済・国民絏済などの仕組みについて理解でき、短期・長期的絏済計画の重要性を認識できる。</li> <li>・生活設計の必要性、意義について理解できる。(関心・意欲・態度)</li> <li>・近い将来の絏済的自立を考えながら、家庭絏済・国民絏済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようし、短期・長期の絏済計画について意欲的に取り組もうとしている。</li> <li>・自分の将来設計を職業選択、人とのかかわり、絏済設計などを通して意欲的に考えようとしている。(思考・判断・表現)</li> <li>・現在の絏済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考え方を持ち、判断できる。</li> <li>・自分の生活設計について、生活資源の要素を考えながら、考えをまとめができる。(技能)</li> <li>・絏済的自立に向けて、短期・長期の絏済計画にかかる実習を通して、人生設計を組み立てができる。</li> <li>・短期的・中期的・長期的な生活設計をすることができる。(知識・理解)</li> <li>・家庭絏済・国民絏済などの仕組みについて理解でき、短期・長期的絏済計画の重要性を認識できる。</li> <li>・生活設計の必要性、意義について理解できる。</li> </ul>
---	-------------	-------------------	--	------------------------------------	-------------	---

教科名 対象学年	情報 第1学年	科目名 対象コース	社会と情報 全コース	単位数 履修形態	2単位 必修	
科目の目標	コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用する態度を育てる。					
学習内容の概要	<p>(1)目的に応じた解決手順の工夫、コンピュータや情報通信ネットワークや情報通信ネットワークなどの適切な活用、伝達内容に適した提示方法の工夫などの実習を行う。</p> <p>(2)情報通信ネットワークやデータベースなどの活用を通して、必要とする情報を効率的に検索・収集する方法を習得するとともに情報発信に当たっての個人の責任、プライバシーや著作権への配慮など情報社会で必要とされる心構えについて理解する。</p> <p>(3)情報機器の仕組みと特性を理解し、情報化の進展が生活に及ぼす影響を身のまわりの事例などを通して認識し、情報を制圧に役立て主体的に活用しようとする心構えについて考える。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A.関心・意欲・態度  情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために進んで情報及び情報技術を活用し、情報社会に主体的に対応しようとする。	B.思考・判断  情報活用の方法を工夫したり、改善したりするとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断をする。	C.技能・表現  情報の収集・選択・処理を適切に行うとともに、情報を目的に応じて表現する。	D.知識・理解  情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、現代社会における情報の意義や役割を理解している。		
教科書、教材など	社会と情報(東京書籍)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	單元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	1章	オリエンテーション  1.わたしたちを取り巻く情報 ①情報とメディア ②信頼できる情報とは ③メディアリテラシー  2.アナログからデジタルへ ①情報のデジタル表現 ②デジタルだからできること 写真加工に挑戦しよう	「社会と情報」の学習目標と、シラバスについて知る。  メディアの意味と特徴を学ぶ。 情報の信憑性について理解する。 情報を批判的にとらえることを知る。  文字、画像、動画像、音のデジタル化の仕組みを理解する。 デジタルデータの利点と情報の統合について理解する。 画像処理ソフトウェアを用いて画像を加工する。 プレゼンテーションソフトウェアでスライドショーを作成する。	6	メディアの意味と特徴について理解している。 情報の信頼性や信憑性について理解している。 メディアの特性を理解し、情報を適切に判断している。  文字、画像、動画像、音のデジタル化の仕組みを理解している。 デジタル化の利点と問題点を理解している。 画像処理ソフトウェアを活用することができる。 スライドを効果的に作成することができる。
	5		3. 情報の表現と伝達 ①情報が伝わる仕組み	情報の表現と伝達について理解する。	8	情報伝達の仕組みについて理解している。
	6					
	7					

			②伝達のための表現と手段 ③プレゼンテーション 画像ムービーを作ろう	情報伝達のためのメディアの選択やカラーバリアフリーについて理解する。 プレゼンテーションの意味やその発表・評価方法について理解する。 ビデオ編集ソフトウェアで見せたい順に写真を配置する。		情報伝達のためのメディアの選択について理解している。 プレゼンテーションの意味と方法を理解している。 自分の意図した画像ムービーを作成することができる。
2	9	2章	1.インターネットの利用 ①インターネットの仕組み ②WWWと電子メール ③情報の検索 ④情報収集の注意点 2.ネットワークとコミュニケーション ①メディアの発達 ②誰でも表現者の時代 ③コミュニケーションの特徴 ④情報発信と注意点	IPアドレスやパケット通信について理解する。 WWWや電子メールの仕組みについて理解する。 検索エンジンの仕組みとその検索方法について理解する。 情報収集を行う際の注意点について整理する。 メディアの発達について学ぶ。 ソーシャルメディアや、表現活動、情報発信について学ぶ。 コミュニケーションの特徴とその活用法について学ぶ。 情報発信の方法とその工夫・注意点について理解する。	2 8	IPアドレスやパケット通信について理解している。 WWWや電子メールの仕組みについて理解している。 検索エンジンの仕組みとその検索方法について理解している。 情報収集を行う際の注意点について理解している。 メディアの発達について理解している。 ソーシャルメディアや、表現活動、情報発信について理解している。 コミュニケーションの特徴を理解している。 情報発信の方法とその工夫・注意点について理解している。
10		3章	1.情報化の影響と課題 ①情報社会の影 ②情報モラル ③セキュリティ 2.法律と個人の責任 ①情報社会と著作権 ②個人情報の保護	情報社会のさまざまな問題について理解する。 情報モラルについて理解し、それを積極的に活用していくことを考える。 情報セキュリティについて理解する。 著作権について理解する。 個人情報について理解し、その保護や活用について理解する。	8	情報社会のさまざまな問題について理解している。 情報モラルについて理解している。 情報モラルを意識した対応をしようとしている。 情報セキュリティについて理解している。 著作権について理解している。 個人情報の保護について理解している。
11			情報を検索しよう レポートを作成しよう	検索エンジンの使い分けについて整理する。 案内状を作成する。 レポートを作成する。	8	情報検索を効果的に行うことができる。 情報検索を積極的に工夫しようとしている。 文書処理ソフトウェアの特性を理解している。 案内状を作成することができる。
12			自分をPRしよう	構成用紙にアイデアを書く。 構成用紙をスライドにする。 自己PRを発表する。	8	自己PRの内容を積極的に表現しようとしている。 自己PRの内容を効果的にスライドに表現している。 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。